



第7号
平成21年7月1日発行
発行所
藤香会事務局
092-541-8268
発行責任者
中島 敏行

黒田家第十五代当主
福岡を愛された長久様を偲ぶ

藤香会副会長 中島敏行

黒田長久様が二月二十六日、九十二歳の天寿を全うされ、旅立たれました。昨年十一月私が上京の折お会いし、福岡の近況をお話して間もなくのことで、哀惜の念ひとしおのものがありません。

神葬祭は東京の青山葬儀所で営まれ、長高様を喪主に多くの親族の方々が会葬されました。

福岡からも、藤香会の山崎拓会長夫人、吉田宏福岡市長、西憲一郎福岡博物館長、福岡市民の会の石井幸孝理事長、そして光雲神社、菩提寺の崇福寺ほか、黒田藩ゆかりの神社寺院、黒田奨学会、藤香会などから多数の参列があり、長久様とのお別れを惜しみ、ご遺徳を偲ぶ盛大な葬儀となりました。

齋主の祭詞の中では、長久様の長い生涯にわたる経歴とご功績が奏上され、また黒田奨学会の各務章理事長と、山階鳥類研究所の山岸哲所長の弔辞では、それぞれ長久様の奥深く折り目正しいお人柄や、専門分野での偉大な業績が奉呈されました。



◆◆ 神葬祭 ◆◆

ら藤香会の会員として、長久様がご来福の折は親しく接してください、ご薫陶をいただいた私にとり、忘れ難い思い出の数々が走馬灯のように目の前を巡ります。

平成八年、黒田家は崇福寺に隣接する黒田家墓所を福岡市指定文化財として受け入れられました。そのとき長久様は、市民の参詣の利便を考へて墓所への通路を造り、入口の門を「藤水門」と命名され、自ら筆を執って扁額を掲げられました。

また平成十七年福岡を襲った大地震の日、如水公ご法要のため来福中でしたが、墓所内の墓石や燈籠、墓所を囲む石塀などの倒壊による大被害を見て大変憂慮されました。一年後、墓所は修復しました」と報告すると、長久様は殊の外喜ばれ、「市民の皆さん有り難う」と言われた笑顔の一言がいまでも私の目と耳に焼き付いています。

平成十五年、「如水公四〇〇年遠忌大祭」を記念し、福岡で「第二回黒田サミット」が開催されましたが、長久様のサミット会場での言葉が、「福岡城に天守閣を！」という市民運動のきっかけとなりました。

福岡には深く愛着をもっておられ、ご家族で初めて山笠や博多どんたくの見物にいられたり、ある年は福岡市美術館で「鳥絵展」を開催されたこともあり。絵といえは音楽にも造詣が深く、「博多どんたく行進曲」の作詞作曲もされています。

「愛は人生の太陽」「和を以てて尊しと為す」を身を以て示され、常に端正な姿勢で、本当に気品に充ちた殿様でありました。これから長高様のご遺志を継がれますが、温かくお見守りください。ご冥●お祈り申し上げます。

平成二十一年度総会開催

定期総会は五月二十一日(土)、薫風に和らぐ鳥飼八幡宮の参集殿で行われました。出席者は六三人で、「総会」に引き続き恒例の「卓話」、「懇親会」で交流が深まりました。

1. 総会議事

議事は新役員、本年度行事、予算など提案どおり承認され、新しい年度のスタートが切られました。新役員は次のとおりです。

- 名誉顧問 黒田 長高
- 会 長 山崎 拓
- 副会長 中島 敏行
- 事務局長 諸岡 京子
- 事務局 毛屋 嘉明
- 会 計 田島 満行 平山 芳子
- 監 事 尾崎 元治 小河 昭三
- 広 報 平田 善積 浜田 泰祐
- 理 事 田中 鎮夫 関 武吉
- 森 忱次郎 馬頭 徹夫
- 木下 正 篠原カズエ
- 高倉 清子 小池 玲子

2. 歴史卓話

講師 福岡市博物館顧問 田坂 大蔵氏
テーマ 「黒田 長久様を偲ぶ」

田坂先生は、東京赤坂の黒田家に所蔵されていた「黒田家資料」調査のため、黒田家と縁のあった方です。先生は、長久様のご専門の鳥学以外の抜きん出た語学力など、奥深い学問や馬術の名手であられたことなど、長久様のご生涯を偲べられました。



◆◆ 卓話風景 ◆◆

第二代藩主・忠之公

三五六回忌ご法要

例年のとおり忠之公のご法要が、ご命日の二月十二日に東長寺で営われました。

お焼香のあと、本会員で黒田藩の歴史に詳しい藤金之助氏による、「黒田忠之公について」という題で卓話がありました。

忠之公といえは、一般には「黒田騒動」で知られ、我ままで遊蕩に溺れたお殿さまというイメージがつきまといまいます。しかし、藤氏はこのような俗説にはとらわれず、限られた時間の中で忠之公論を●されました。

忠之公は、幼少のころから両親にうとまれるなど、ほぼ同時期に將軍職にあった徳川家光公とよく境遇が似ていました。幕府にもよく尽くし、「大坂冬の陣」や「鳥原の乱」では勇敢に戦っています。また忠之公ほど、父君の遺言をよく守った殿様はないそうです。

①専制藩主になれ、②下級家臣を採用せよ、③高禄の者を切れ、④筋目の者を改易せよ、などなど時代の変わり目にあつて、これを大胆に断行した為政者であったということが出来ます。

同時に、神仏を崇敬し黒田領内の神社仏閣を手厚く保護された殿様でした。

長久公の五十日祭に参列して

藤香会副会長 中島敏行

四月十六日、五十日祭が青山霊園で行われまし
した。肌寒い日でしたが、霊園は豊かな緑の樹
木に囲まれ、その内側には広大な墓地が広がっ
ていました。その中でも黒田家墓所は一段と広
く、そこに長久公の新しい黒御影、巴藤紋入り
墓碑が建てられていました。周りには第十一代
の長溥公から長知公、長成公、長禮公と、四代
のご先祖様の墓石が長久公を護るように並んで
いました。

墓碑の前に、ご親族を中心とする約五〇名の
参列者のもと、神官の祭詞が厳肅に奏上されて、
納骨に移りました。

私は藤香会を代表して、御供物料と生花をお
供えして、長久公の在りし日を偲びました。

祭儀のあとの、ホテルでの直会の席では、長
久公の知られざるお人柄のエピソードも色々
と出されました。

た。そのな
かでご本人
がお見届け
できなかった
た歌曲集、
『鳥の歌図
鑑』出版の
披露は、長
久公の鳥を
愛し研究さ
れたご生涯
の集大成を
聞く思いで
した。



◆◆ 東京青山霊園にて ◆◆

如水公四〇六回忌ご法要 ならびに長久公追悼ご法要

〔長高様歓迎会並びに長久公を偲ぶ会〕
長高様のご来福にあわせ三月二十日、市内の
八仙閣で長高様ご来福歓迎会と長久公を偲ぶ会
が開かれました。

三月二十日は如水公の命日で、毎年この日に
崇福寺でご法要が営まれていますが、今年は二
月二十六日に他界された長久公の追悼法要も兼
ねて行われました。

法要の終わりに第十六代当主の長高様から、
藤香会と福岡市民に、父君故長久公の東京での
葬儀参列と生前の厚誼に対するお礼のことばが
ありました。

開会に当たり、本会の中島副会長が長久様と
藤香会の関わりを追憶しながら、高潔なお人柄
の一面を紹介しました。続いて、筑紫国風社の
三田村寿美子氏が長久公を偲ぶ和歌一首を朗詠
され、そのあと本会の平山芳子理事と黒田奨学
会の各務章理事長が長久様を偲んで想い出のひ
とこまを話されました。また、中村旭園師は筑
前琵琶に想いを託されました。

藤香会関係 昨年度の主な行事とイベント

月日	行事・イベント
H20.5.4	黒田長高様歓迎式 於福岡城どんたく演舞台
5.24	定期総会 於警固神社 卓話 福岡市教委 三木 隆行氏「黒田如水公の墓石碑文について」
7.26	崇福寺黒田家墓所清掃。ボランティアを合わせて総勢53名
7.27	黒田長政公386回忌ご法要
8.1~8.3	第3回黒田サミット 於姫路市
9.12~11.3	黒田長政生誕440年記念展〈黒田長政と二十四騎展〉 於福岡市博物館
9.20	福岡市博物館にて第4回勉強会。 講師 長崎大学教授 柴多一雄氏 演題「黒田武士の実像について」
11.1	福岡城跡〈下の橋大手門復元竣工式〉を福岡市教育委員会挙行
11.16~11.17	崇福寺で〈黒田家ゆかりの織物展示会〉開催
12.6	藤香会忘年会 於タカクラホテル 出席46名 席上、福岡黒田ライオンズクラブより当藤香会に金一封贈呈
12.15	福岡城築城400年記念事業として「藤香会の沿革(略記)」を作製
H21.2.12	東長寺にて黒田忠之公ご法要。卓話 藤金之助氏「忠之公について」
2.26	黒田家第15代当主黒田長久様ご逝去。
3.2	故 黒田長久様の葬儀が青山葬儀所にて執り行われる。
3.15	崇福寺墓所清掃。ボランティアを合わせ80名参加。 木下正氏、桜4本を追加植樹、寄贈
3.20	崇福寺にて黒田如水公ご法要並びに長久公追悼ご法要。 柳心会墓前剣舞奉納 〈黒田家第16代当主黒田長高様歓迎会並びに故黒田長久様を偲ぶ会〉

私の健康法

会員クリック⑥



木下さんは大正十四
年の生まれです。健
康法を通して人生観
の一端を述べてもら
いました。

藤香会理事 木下 正

ナマンダブ ナマンダブ、有難うございます。
「ナマンダブ」、これが私の健康の源で、すべ
てのことに感謝することです。

春夏秋冬、四時四五分起床。酢、猪口一杯を
コップ一杯の水で薄めて呑みます。

晴耕雨読の私は雨が降れば読書を楽しんでい
ます。毎朝、温度計を見て服装を整え、玄関で
今日のテーマを確認してウォーキングに出発し
ます。呑んだ酢が腹の中で納まったところから頭
が冴えてまいります。七〇分後、自宅に着くこ
ろには不思議と答えが出てくるものです。

朝食は六時半。ご飯はひと口五〇回以上噛む
ことにしています。会社へは八時に出勤します。

健康は姿勢から、と言いますが、私が発見し
たのが正姿勢で車を運転することです。背に小
さな枕を当て、頭はかならずヘッドにつけて運
転すると、長距離でも疲れを知りません。四十
有余年、常にこの運転方法を堅持しています。
猫背といわれた私はいつの間にか背筋が延びて
しまいました。

なお、タワシの健康法もあります。風呂で体
に石けんを塗り、顔から先を爪先タワシで擦る
のです。足とか腰に痛みやコリがあれば念入り
に擦ります。とても気持ちの良いものです。こう
して一夜明けてウォーキングに出ると、不思議
とコリなどは取れてしまいます。多分滞った血
行をタワシで擦り正常に戻すからだだろうと信じ
ております。

ところで、人生最後の趣味を大地に求め、無
農薬の野菜作りという楽しみを発見しました。

ナマンダブ ナマンダブ、有り難うございま
す。ナマンダブ。合掌。

編集後記

本紙「たより」の編集をしていると、どうして
も黒田藩の歴史の勉強が必要になります。このこ
ろは、その勉強するのがとても面白くなりました
。(平田)